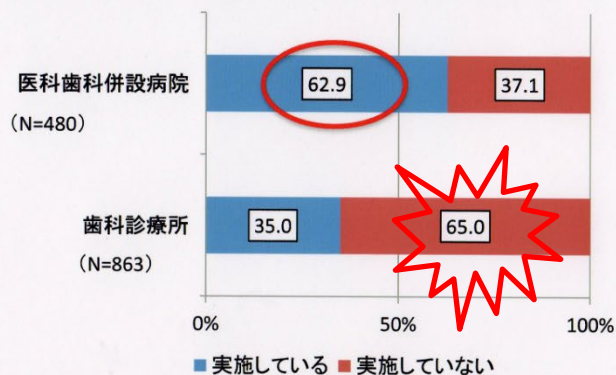


周術期口腔機能管理の実態は？

周術期における口腔機能管理の実施状況等

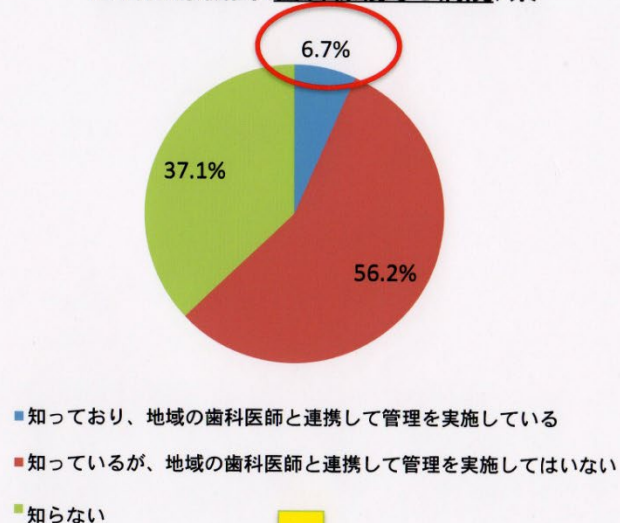
中医協 総-2
25. 11. 22

歯科医療機関（歯科標榜病院・歯科診療所）票



医科歯科併設病院の方が取り組みが進んでいることが示された。

医科医療機関（歯科標榜なし病院）票



周術期口腔機能管理料を知っており、地域の歯科医療機関と連携して、管理を実施している医科医療機関（歯科標榜なし）は6.7%と少ない。

医科歯科連携がうまくいっている？事例

8020推進財団 医科歯科連携事例集より

1. 岩手県：

岩手県歯科医師会としてのNST 連携の推進

県立二戸病院との円滑な連携による二戸歯科医師会の院内NST への参加

地域急性期病院でのNST 回診に歯科医師会が参画した取り組み(奥州市歯科医師会)

2. 広島県：

回復期リハビリテーション病院歯科が中心となる病診連携への取り組み

3. 千葉県：

(社)柏歯科医師会が主体となり、慈恵医大柏病院・市立柏病院と地域歯科医院との円滑な連携によるシームレス口腔ケアへの取り組み 一歯科を併設していない病院における口腔ケア連携システムの構築

4. 香川県：

香川県歯科医師会と香川シームレスケア研究会との連携による地域連携クリティカルパスへの歯科の参加

5. 長崎県：

長崎デンタルネット

6. 大分県：

ゆふ医科歯科連携(筆者追加事例)

7. 静岡県：

県西部浜松医療センターと浜松市歯科医師会との連携によるPEG患者への地域連携口腔ケアの取り組み

病診連携に向けての5つのTips

1. 地域の医療資源を点検する
2. 病院のキーパーソンをつかむ
3. 連携方式を選択する
4. 連携体制を整備する
5. 看護師との協力関係をつくる



新しい組織をつくる必要条件

1. 目的がはっきりしていること
2. 牽引車となる人が必要（誰かが龍馬に）
3. 最後にシステム作り（次代への引き継ぎ）

「医科歯科連携」の目的をあらためて 考えてみよう！

- 国民の健康長寿のため
- 国民が病気になったとき、すみやかに
治癒せしめるため
- 国民が要介護となった場合、悪化を防
いだり、在宅介護を支えるため

どうすれば進む？医科歯科連携 —今でしょ！編—

1. とにかく病院に行ってみること
2. まずはお見合いの機会を：各市町村で三師合同研究会を開催すること
3. 一度面識ができれば、共通の患者さんについてすぐに電話をする関係をつくること
4. 機会のあるごとに歯科の立場を説明し、相手の話も聞いて勉強すること
5. 在宅訪問診療の際は、主治医（医科）の先生と必ず連絡を取ること
6. 歯科医はだれもが一度介護認定審査員になること
7. お互いがわかり始めてきたらシステムをつくること
8. 病院の場合、標榜科が無理なら歯科衛生士を雇用してもらうこと

院内歯科診療マニュアルの作成

- システム化して院内歯科診療を行うことが重要
- 院内外医療者の役割分担の明確化
- 今までの経験を踏まえて、なるべく具体的に実施内容を明文化
- 院外歯科医師とも話し合ってマニュアル内容を検討
- 2013年11月18日の歯科医師会との会議により最終的な内容を決定し完成
- 医師への通知徹底(医局会での説明等)

茨城県立中央病院歯科診療マニュアル

1 目的

当院を受診する患者の口腔機能を管理することにより，あらゆる疾患において，より質の高い医療の提供を目的とする．

2 歯科科診療実施関係者

- ①茨城県立中央病院医師
- ②茨城県立中央病院看護師
- ③茨城県立中央病院歯科医師（非常勤）
- ④茨城県立中央病院歯科衛生士
- ⑤茨城県立中央病院地域医療連携室
- ⑥茨城県立中央病院医事課
- ⑦茨城県歯科医師会会員
- ⑧茨城県病院歯科医会会員
- ⑨その他上記目標に賛同する医療従事者

3 実施体制

主治医または看護師の要請により，歯科医師（非常勤），摂食・嚥下障害看護認定看護師，歯科衛生士が中心となり，近隣の歯科医師会会員と連携しつつ対応する．

茨城県立中央病院歯科診療マニュアル

実施内容

- ①入院患者における歯痛，歯周病急性発作，義歯不適合などの歯科トラブルに対する処置
- ②入院患者における歯科疾患の診断
- ③入院患者における歯科治療相談
- ④入院患者への口腔ケア介入
- ⑤入院予定患者への歯科受診励行
- ⑥外来がん治療患者における歯科受診励行
- ⑦退院後の歯科治療の推進

茨城県立中央病院歯科診療マニュアル

茨城県歯科医師会連携登録歯科医

- (1) 入院前患者の自院での歯科治療および口腔ケア
- (2) 外来がん治療患者の自院での歯科治療および口腔ケア
- (3) 情報提供書等の作成と県立中央病院への連絡
- (4) 退院後の自院での歯科治療および口腔ケア

茨城県立中央病院歯科診療マニュアル

入院患者往診登録歯科医(東西茨城)またはかかりつけ歯科医

1. 地域連携室からの依頼を原則受ける
2. 歯科往診の日時を決定し、地域医療連携室と調整する
3. 当院歯科衛生士、摂食・嚥下障害看護認定看護師もしくは主治医、病棟看護師等の立会いの下で治療する
4. 院内継続治療の場合は、その旨を病棟看護師に伝え日時調整する
5. 歯科会計書の作成と患者本人または家族への説明

がん治療をサポートするための連携を 意識したシステム作り



医科歯科連携を必要とする主な疾患や治療法

おもに医科から歯科へ	おもに歯科から医科へ
● がん ● 糖尿病 ● 睡眠時無呼吸症候群 ● 誤嚥性肺炎 ● 摂食嚥下障害 ● 心内膜炎 ● 掌蹠膿疱症 ● 不明熱	● 骨粗鬆症（BP製剤、デノスマブ投与中） ● 抗血栓療法 ● Ca拮抗剤による歯肉増殖症 ● 非定型顔面痛 ● 口腔乾燥症（薬剤性、シェーグレン症候群） ● 口腔心身症 ● 金属アレルギー ● 歯科補綴物誤嚥

虚弱予防達成への新たな創造: 有機的に持続可能な形での達成へ

東京大学高齢社会総合研究機構 飯島勝矢 先生のご厚意による



- ① 医科側が**早期からの口腔管理**の重要性を再認識
- ② 国民目線として**分かりやすい概念と基準値**
- ③ 国民に一番近い存在(地域リーダー等)が普段の生活の延長線上で**有効的な健康増進活動**に取り組む
- ④ スクラムを組んだ**骨太の共同研究**とメッセージ発信

高齢者に多くみられる疾患

高齢者に多い疾患	高齢者特有の疾患
●悪性腫瘍 ●高血圧症 ●糖尿病 ●心疾患 - 虚血性心疾患 - 不整脈 ●脳血管障害 ●高脂血症 ●歯周病	●老年期認知症 ●老年期うつ病 ●パーキンソン病 ●骨粗しょう症 ●前立腺肥大 ●老年期白内障 ●老年期難聴

サルコペニア：加齢性筋減弱きている現症

加齢に伴うホルモン分泌機能低下，神経－筋系の機能低下，アポトーシスによる筋繊維の減少とサイズの委縮等による。

ロコモティブシンドローム

運動器の衰え・障害（加齢や生活習慣が原因といわれる）によって、要介護になるリスクが高まる状態のこと

フレイル

フレイルは「虚弱」を意味する英語「frailty」からきている。健康と病気の中間的段階で、75歳以上の多くは、この段階を経て要介護状態に陥るとされている。たんぱく質が必要！

歯科医師は何を勉強すべきか？

- 高齢者の特性を知ること
- いわゆるコモンディジーズと言われる疾患の内容を知ること
- 他職種との会話のために必要な最低限の専門用語や投薬、検査内容を知ること
- 全身的疾患と口腔症状について熟知すること
- 在宅などで全身状態が急変した時などの対処法を熟知していること
- 以上を踏まえたうえで、レベルの高い歯科治療ができること、とくに有床義歯については必須（嚥下はできる人がやればよいのでは）
- そして、**チーム医療ができる社交性と人間性を！**

米国小児科学会 (AAP)

- 推奨①: 全ての小児に対して生後6か月までに口腔内の健康状態を評価すること
- 推奨②: 1歳までに歯科医を受診させること
- 支持: アットリスク児にフッ化物塗布を行うこと

どうすれば進む？医科歯科連携 —ちょっと将来編—

1. 卒前教育から：岩手医大なら今すぐできる
2. 子供の医療費がかからない今がチャンス：小児科と連携して健康教育ができる
3. 家庭内暴力など社会的問題での連携も大事
4. 健康長寿の秘訣は歯科医療にありと医療介護職だけでなく一般国民にも受け入れてもらうこと